

Title	地域医療における心不全診療
Author(s)	大木, 貴博
Journal	歯科学報, 123(2): 176-176
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/6244">http://hdl.handle.net/10130/6244</a>
Right	
Description	

## 講演抄録

## 特別講演 1

## 地域医療における心不全診療

東京歯科大学市川総合病院循環器内科教授 大木 貴博

現代の日本社会における最も重大な問題は、間違いなく少子高齢化であり、高齢者の急増と若年者の激減は社会構造を大きく変貌させようとしている。それは医療の世界においても同様であり、循環器内科領域においては、少子高齢化により心不全患者が激増し、大動脈弁狭窄症や心房細動のような年齢とともに増加する疾患が急増し、一方急性心筋梗塞のような中高年が好発年齢の動脈疾患が減少し続けている。中でも心不全患者の増加は顕著であり、年間新規発症は35万人に達し、心不全パンデミックと揶揄されている。心不全進行段階により、心疾患発症リスクを有しているステージA、具体的な器質的心疾患を発症した段階のステージB、急性非代償性心不全、いわゆる急性増悪を生じるようになった段階のステージC、不可逆的に死亡に近づいていくステージDに分類されるが、ステージCの急性増悪時に死亡する可能性が高く、また心臓突然死はどのステージにおいてでも生じ得るものであり、心不全の生命予後はあらゆる痛よりも不良であると言われている。心不全の急性増悪とは如何なるものか、当日解説する。また心不全の種類による治療薬の使い分け、さらにペースメーカーなどを用いた非薬物療法の現状についても解説したい。こうした爆発的に増加している心不全患者に対処するため、なるべく急性増悪を生じなくさせ患者生命予後を改善する目的、また一方で貴重な医療資源を浪費させないようにする目的で、昨今多くの医療機関で心不全手帳というものが利用され始めている。市川総合病院でも医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、および理学療法士らとともに協力して独自の心不全手帳を作成した。心不全手帳前半には心不全に関する解説が記載され、後半は日々の血圧、脈拍、体重、症状や浮腫の変化を記入するセルフチェックシートとなっている。セルフチェックシートには近隣かかりつけ医、リハビリテーション施設、デイサービスなどで医療従事者が気づいたことを記入できるようになっている。体調を自己管理すること、他職種により支えることは生命予後を大きく改善させることが知られており、心不全パンデミックに対してこうした活動が役立つことを期待している。

## 《プロフィール》



## ＜略歴＞

1990年3月 慶應義塾大学医学部卒業  
 1994年3月 慶應義塾大学医学部大学院博士課程修了  
 1990年5月 慶應義塾大学医学部内科学教室入局  
 1994年5月 慶應義塾大学病院救急部  
 1995年6月 栃木県済生会宇都宮病院救命センター循環器科  
 1997年7月 慶應義塾大学医学部内科学教室  
 1999年～ 東京歯科大学市川総合病院循環器内科

## 現職

東京歯科大学市川総合病院副病院長  
 東京歯科大学内科学講座主任教授  
 東京歯科大学循環器内科教授・部長  
 東京歯科大学市川総合病院心臓病センター長  
 東京歯科大学市川総合病院患者支援センター長  
 一般社団法人市川市医師会理事  
 東葛飾湾岸地域救急業務メディカルコントロール協議会副会長  
 慶應義塾大学医学部客員教授

## ＜学会＞

日本内科学会、日本循環器学会、日本心不全学会

## ＜賞罰＞

市川市市長感謝表彰3回